

平城京第一次太極殿



しくみ

- 天橋立神社 535.63km - 大沼浮島 - 一の木大明神 535.63km
同距離 正法寺、菅原院天満宮（菅原三代邸宅）、普賢寺 535.63km
- 天橋立神社 111.31km - 平城天皇陵 - 一の木大明神 111.31km
- 天橋立神社 111.435km - 平城京第一次太極殿 - 一の木大明神 111.435km
- 天橋立神社 114.56km - 松尾寺 - 一の木大明神 114.56km
- 天橋立神社 164.69km - 箕嶋神社 - 一の木大明神 164.69km

負頂角

大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稻荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」とあると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稻荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所にな



り、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。
国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、元々「大富沼」が大沼なら出雲系「富一族」の祀る沼だったのだろう。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」（写真）が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社（仮称）はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるに違いない。



右脇侍角

一の木大明神

九鬼水軍一族の波切城への「一の木戸」があった名残といわれる。三重県志摩市大王町波切

左脇侍角

天橋立神社

龍伝説。真水が湧く「磯清水」。
祭神/豊受大神、大川大明神、
八大龍王 京都府宮津市文珠



